

厚生福祉

 時事通信社

104-8178 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信社
昭和28年5月30日 第3種郵便物認可
毎週2回火・金曜日発行(但し祝日を除く)
購読料金 税抜月額4,100円
本誌掲載記事・写真などの無断複写、複製、転載を禁じます。
©時事通信社2017
◎誌面内容に関するお問い合わせ(編集部)
kousei-dokusha@jiji.com

目次

連載	2
点検 17年度介護保険法等改正⑫ 介護療養病床の廃止・転換の経緯と背景	
トピックス	9
まだ気が抜けない国保改革 「えいや」とはいかない	
中央省庁ニュース	10
概算要求、6年連続30兆円超＝働き方改革、子育てに重点／ヒアリ対策で情報共有＝外来生物対策「喫緊の課題」 ほか	
進言(長崎県)	11
インタビュールーム(東京都)	12
ニュース	13
職場の受動喫煙対策必須に	
特集	14
公立病院マネジメントで提言へ 経営人材の確保・育成を	
ニュース	16
バリアフリー化、待ったなし	
私たちの工夫	17
ニュースフラッシュ	18
認知グループホームで家賃助成／子育て世帯向けローン拡充／「子ども食堂ネット」設立／障害者採用試験に点字導入／高齢者の生きがいづくりへ推進会議／医療産業集積で新法人設立 ほか	

朝飯前

知的障がいを持つ人々と共に暮らしている私の朝は早い。朝飯の前、日の出の時刻から、8時を告げるお寺の鐘が聞こえるまで、彼らと農作業をするのが日課となっているからだ。

極めて簡単に出来ることを「朝飯前だ」と言うが、私の朝飯前の時間帯は、そうはいかない。

能率とか効率とかいった言葉とは無縁の世界にいる相棒たちとの作業は、作業員1人と、監督多数という図になるのだ。

昭和の時代の流行歌をご機嫌よろしく歌い始める者、巨人勝った、阪神負けたと、昨日のプロ野球解説をとうとうと始める者……。その中で私一人が、ダラダラ汗を流して鍬を振るのだ。

知的障害者施設・堤保敏
打診

だから、私の朝食前の農作業は、なかなか先に進まない。

だが……という接続詞をあえて使うのだが、今年、「我らの夏野菜」は大豊作だった。

ナス、キュウリ、トマト、ニガウリ、オクラ……。「我らの野菜」を売るための無人販売所には山と積めた。近ごろの、苛酷とも言える厳しい気象条件のなかで、この大豊作の理由が私には、よくわからなかった。だが、この収益のおかげで、寿命が来ていた彼らの部屋のオンボロテレビが新品の大型テレビに買い替えられて、これこそ「天の恵み」と思えた。

ニュージールランドには、「台所の窓から見える

ものを食べるのは人生の幸せ」という言葉があるそうだ。

遠くの産地の野菜より地元で生産された野菜、作り手の顔の見える作物や食物を選ぶことが安全で美味しい。このことを思うと、彼らとの朝飯前の作業にも自然と力が入るのだ。

畑を持たない私の友人は、新鮮で美味しいものが食べられて幸せだとうらやむ。台所から見える畑で育った野菜を、毎日食べている私もそう思う。だが、豊作に「大」の字が付くと、昨日も今日もキュウリやナスが食卓に並ぶことになる。

「たまには肉が食べたいわ」という声も聞こえてくる。買ってくれる人、もらってくれる人がいなければそうなる。そうになると、妻の夏野菜調理は、「朝飯前」とはいかなくなるのだ。

インタビュー・ルーム

1051

車いすのお出掛け情報を共有

織田友理子さん (37)

NPO法人PADM (パダム) 代表



車いすで出掛けるときに必要な情報を全国各地から集め、マップ上に可視化するアプリ「Wheelog (ホイーログ)」。自身も車いすユーザーで、アプリを考案したNPO法人PADM (東京都大田区) の織田友理子代表に、開発の経緯や目的を聞いた。

【聞き手＝平野実季・内政部】

● ウィーログとは。

「車いすユーザーが、目的地に行くまでにどうしたらいいか分かるようマップ上で可視化するアプリのこと。パリアフリーの場所を示すスポット投稿、車いすが通った道を示す走行ログ、質問できるリクエスト機能などを盛り込んだ。車いすユーザーは日本で約60人に1人といわれるが、街中で見掛けることが少ない。もつと気軽に出来る環境にしていきたい。情報の少なさが出づらさにつながっているため、車いすユーザーだけでなく健常者も進んで投稿してもらいたい」

● 開発のきっかけは。

「私は、手足の先の筋肉から衰え始め、やがて寝たきりになる筋疾患『遠位型ミオパチー』を患い、26歳から車いすに乗っている。講演などで全国各地に行くが、初めての場所だと行けるかなと不安になる。行ってみたら意外に大丈夫な場合も、その逆もある。」

行ってみて発見したことをブログに

書いたりしていたが、動画が分かりやすいと思いついて、車いすスポットを紹介する「車椅子ウォーカー」を始めた。毎週更新することを目標に動画を制作しているが、それで精いっぱい。私が各地に行つて作るより、その土地をよく知っている人に情報を投稿してもらえようなプラットフォームを作れたらと思った。その構想が、テクノロジを活用してより良い社会をつくるアイデアを募集する「グーグルインパクトチャレンジ」でグランプリを獲得した」

● これまでどんな活動をしてきたか。

「NPO法人PADM、遠位型ミオパチー患者会の代表を務めてきた。患者数が日本に数百人しかいないため、日本の研究者が治療に有効な物質を見つけてくれたりも、採算面で問題があり製薬会社が新薬を開発してくれない状況だった。そこで、何社も回って開発に取り組んでくれるところを見つけ、

現在は治験の段階だ。

また、指定難病ではなかったため全国で署名活動を展開した。2008〜14年にかけて204万筆を集め、厚生労働大臣に要望。患者から声を上げ協力してくれる人も増え、15年1月に難病に指定された」

● 目標や課題は。

「海外に行くのとドアを開けて待つてくれたり、エレベーターですぐ譲ってくれたりする人が多い。日本でも、設備面の充実だけでなく、『心のバリアフリー』が浸透したらうれしい。ウィーログは始めたばかりだが、信頼のかけられる情報を惜しげもなく、たくさん投稿してくれる人がいる。そういう人たちと実際に交流が持てて、友達輪が広がるようなツールになればいいと思っている。沖縄市と東京都台東区の浅草で、既に交流会を行い、全国各地でも開催したいと考えている。」

データの投稿数だけでなく、大事なものはアプリを通じて励まされる、勇気づけられる、自分もアクションを起こしてみたいということ。一生懸命に投稿してくれた人が、さまざまな人に喜んでもらえていることをひしひしと感じられるようになる」といいます。